

政策会議の議事要旨

1 開催日時 令和3年(2021年)10月15日(金)10:30~12:03

2 出席者 知事、副知事、公営企業管理者、教育長、危機管理部長、企画振興部長、総務部長、県民文化部長、健康福祉部長、環境部長、観光部長、産業政策監兼産業労働部部長、観光部長、農政部長、林務部長、建設部長、佐久地域振興局長、諏訪地域振興局長、南信州地域振興局長、木曾地域振興局長、松本地域振興局長、北アルプス地域振興局長、長野地域振興局長、北信地域振興局長

3 議事等

議題	国内外のサーキュラーエコノミー先進事例について
担当部局	環境部
概要	持続可能な社会の実現に向けて、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄という一方通行型の社会構造から、資源が循環するサーキュラー型の経済構造へ転換させる動きが注目されており、同概念や先進事例を学ぶことにより各部局の今後の施策に活かす。
主な意見等	<p>【講演の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・近年、資源枯渇や環境問題等を引き起こしてきた産業革命期(1750年代)の世界観を見直し、「地球には限界がある」という考えや、「3つのP」(People、Planet、Profit)という相互依存の考えが注目されている。・オランダ政府では、「資源を取って、作って、使って、捨てる」という「リニアエコノミー」から、「捨てる」というプロセスがなく資源が循環する「サーキュラーエコノミー」への転換を打ち出すとともに、2050年までに社会全体を完全にサーキュラーエコノミー化することを2016年に宣言した。・業界の垣根を越えた廃棄物情報の共有により、「廃棄物を有益な資源に変える」という新しいイノベーションが生まれ得る。・アムステルダム市内には、月額制でリースできるサーキュラーエコノミー・ジーンズを提供するファッションブランドや、廃棄食材を一流シェフが調理・提供するレストランが誕生。・環境に対するメッセージは言葉ではなく、デザインで表現。おしゃれであることや美味しさが人を惹きつけ、無関心層へのアプローチにつながる。・発酵文化や組木の伝統構法など、日本独自の文化が持つポテンシャルは高い。 <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・第二のマイクロプラスチックを生まないためには、製造過程でのサーキュラーデザインを意識した素材開発支援が重要。・サーキュラーエコノミーは製造業だけの話ではなく、観光や建設、農業など幅広い業界に関連する。・アムステルダム市が掲げる「やりながら学んでいく(learning by doing)」という理念は、長野県の掲げる「学びと自治」の県づくりとも重なる。サーキュラーエコノミーの考えは長野県と親和性が高い。
協議の結果	認識を共有

議題	長野県障がい者共生社会づくり条例（仮称）について
担当部局	健康福祉部
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度内の制定に向け準備を進めている「長野県障がい者共生社会づくり条例（仮称）」の骨子案、重点ポイント及び県としての取り組み等について認識を共有
主な意見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・条例ができるにあたり、全ての部局は条例を踏まえた取組や対応を検討すべき。行政サービスを提供する時に、障がい者への配慮や求められている内容を考えることがスタートラインとなる。 ・考える土台となる「県職員が障がい等に対する理解を深めるための取組」については、しっかり取り組んでいく。 ・条例の対象を「障がいのあるなしに関わらず」として広く捉えようとしているのは理解できるが、条例の目的を明確化させるために、一定程度の定義は必要ではないか。この条例は何を担うのかを明確にした方がよい。
協議の結果	引き続き検討